

# ほとけさまは

## ■ 楽曲データ

歌詞：森山美苗 作詞

楽曲：弘田龍太郎 作曲

発表：大谷楽苑 1948年

初演：大阪毎日会館 1948年

初出：『讃仰歌』 大谷楽苑 1948年

管理番号：M1347

## ■ 創作の経緯

大谷楽苑より「讃仰歌」第7番として発表。歌詞は公募による。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『讃仰歌』 大谷楽苑 1948年

校訂の詳細：特記事項なし

## ■ 解説

仏さまは、いったいどこにいらっしゃるのかしら——まるで、好奇心旺盛な子どもが発したセリフのようですね。これが、今回ご紹介する仏教讃歌《ほとけさまは》のテーマです。この無邪気な問いが、子どもの素直な心の動きのままによく練られた詩となり、メロディーを得て、幅広い年代で歌われる仏教讃歌へ結実しました。

子どものための仏教讃歌としてみれば、想像力をかきたたせる楽しい歌であり、大人が歌う場合には、童心にかえったような気持ちよさを感じさせます。また、演奏会などで披露する楽曲としても聴衆の心を和ませることのできる雰囲気を用意していると思います。様々な場面で「過不足なく、ちょうどよい」ところが、この曲の素晴らしさだといえるでしょう。

## ◆ 歌詞について

一度、書かれているとおりに仏さまを探してみてください。1番では、自然のなかの仏さまを見つけるために背伸びをしたり、腰をかがめたり、目を凝らしたりしなくてははいけません。その姿を想像してみましょ。どこかユーモラスだと思いませんか。2番はどうでしょう。目を閉じて家族の顔を浮かべてみます。歌詞では、眉や目、胸、手といった部位がクローズアップされて、そうした部分から全体像が起こされていきます。すると、個々の身体の特徴が背後に消えて、その人の雰囲気や、表情のなんとも言い表せない陰影が現れてくるよ

うに思うのですが、いかがでしょうか。

作者の森山美苗さんは一般の方なのか、専門に詩作をなさった方なのか、今となってはわかりません。けれども、言葉の感覚に優れた人だということは確かだと思います。

この詩は、文章に緩急のリズムがあり、詩自体にメロディーを感じさせるような音楽性を持っています。また、平易な言葉を用いながら、多彩なイメージを読み手に喚起させる工夫もほどこされています。子どもの目線で書かれていながら、大人が子どもに言い聞かせているような穏やかな情緒が心に残ります。

#### ◆音楽について

作曲は、弘田龍太郎（1892～1952）です。東京音楽学校（現・東京芸術大学音楽学部）で本居長世に師事し、卒業後はピアニスト、作曲家として活躍しました。《ほとけさまは》は晩年に書かれた小品ですが、長年仏教讃歌の佳作として親しまれてきました。弘田の業績の中で、比重の大きい「童謡」と「仏教音楽」の両方に関連する作品としても特別な位置にあると思います。

さて、この曲は、森山さんの語調のよい詩に作曲家が一筆書きでメロディーを乗せたような、颯爽とした筆致が魅力的です。思わず鼻歌まじりに歌ってしまう、そんな親しみやすさがあり、声に出すことの心地よさ、歌う喜びなどが十分に味わえる曲になっています。

#### ◆歌い方

澁刺とした子どもの気分で、軽快に歌ってください。1小節をひとつにカウントできる幾分早めのテンポがよいでしょう。

①最初の8小節は一息で歌うような気持ちで。12小節目にブレスがありますが、表現のためのブレスと考え、流れが途切れてしまわないように。

②11小節目の「どこに」は明るく伸びやかに、ブレスの後の「どこに」は、わずかなアクセント（ほんの少しです！）と、ニュアンスのある「どこに」にしてみましよう。

③続く17小節目からの16小節間は、8分音符を小気味よく歯切れよく歌います。4小節ごとに開始の音が上がりますが、1番は「は一るは」「な一つは」と明瞭な音が並びますので、爽やかに盛り上げて。2番は、「おーまゆ」「おーめめ」「おーむね」と「M」のつく円やかな音が多く、気持ちのうえで1番と切り替えて歌えるとよいでしょう。

④33小節目の頭の「い」は、横に開いた音にならないように響きに注意して。41小節目も同様です。

⑤33小節目、41小節目からの8小節間は一息で歌うような気持ちで。

⑥最後のフレーズ「ほとけさまは あれあれあそこにいらっしやる」は、前半の伸びやかさと、後半の茶目っ気あるリズムの落差が面白いですから、その対比をうまくだしましよう。「いらっしやる」のシンコペーションのリズムは「らっ」のアクセントをピリッと効かせてください。

#### ◆楽譜について

『聖歌・讃歌集』収録の斉唱版のほか、二部合唱版があります。楽譜は『讃歌集 二部合唱』第7巻に掲載されています。

解説執筆：石川紀久子（和歌山教区和歌山西組 西往寺門徒）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 91（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第219号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.